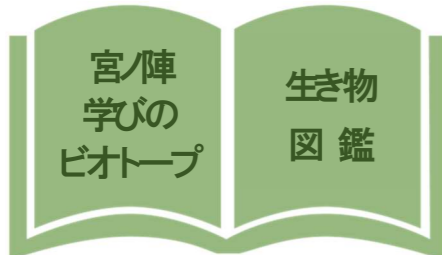


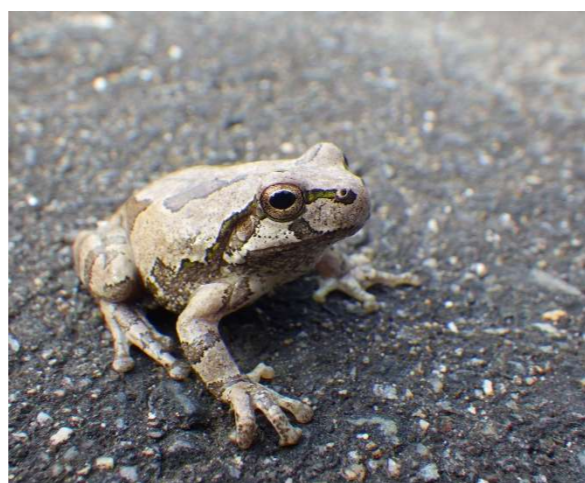
# みやのじんピオトープこども新聞 しんぶん

みやのじんピオトープは、水、土、緑などいろいろな環境に生きものがくらすようになるためにつくられ、人が生きものについて学ぶばしょです。この「みやのじんピオトープこども新聞」は生きものやきせつのこと、イベントや学習会のことなどをお伝えします。



## みやのじんピオトープの池ぼし いけ ニホンアマガエルってどんないきもの？

**大きさをかたちの特徴** おお とくちゆう ニホンアマガエルのおとなの体の長さは、オスが2.0~4.0センチ、メスが2.5~4.5センチ。背中の色はくらい緑色または赤っぽい茶色でまだらな模様があり、まわりの色、あかるさ、温度などによって色を変えることができます。前足は4本、後足は5本の指があり、指の先には吸盤があります。この吸盤で垂直な木や壁などに張りつくこともできます。



ニホンアマガエル

**すんでいる場所** ぼしよ 日本だけでなく、朝鮮半島や中国の東側などにいます。くらす環境は、水辺のちかくの林、草原など低い木や草の上などにです。みやのじんピオトープでは、近くの田んぼか畑から移動してきたニホンアマガエルだと思われます。

**食べもの** た 肉食で、うごいているものに反応して、ハエ、ハチなどの小さい昆虫やクモなどを食べます。夜は建物や自動販売機などの光に集まる昆虫を食べることもあります。

**カエルを守るために** まも 多くのカエルは、卵を水にうんで、オタマジャクシも水の中でくらします。田んぼ、池や湿地などのくらす場所が少なくなってきたためにカエルだけでなく、水の中や水辺でくらす魚、昆虫なども少なくなってきました。生き物は、生き物ごとにくらしやすい場所があり、山、川、海だけでなく、草原、湿地などふだんはあまり気にしない自然も大切な生き物がくらす場所です。家や学校のまわりにどのような自然があるかを見つめよう。そして、どんな生き物がいるか観察してみよう。名前も知らない、見たこともない生き物と出会うことができます。知らない生き物も私たちの大切な仲間です。私たちがカエルや生き物を守るためにできることは、くらす場所を大切にすることです。

ここがすごい！

# “池ぼし”はこんなことをするよ いけ

ステップ1



- 池の中で作業しやすくするために、水をぬいて、深さを浅くします。
- 池の中の生き物を見つけやすくするために、外来種の水草・オオカナダモを抜いたり、切ったりします。
- 💡 水草の刈取りは疲れる作業です。

ステップ2



- あみを使って池の中の生き物をつかまえます。
- 💡 池の底には泥がたまっていて、池の中の作業は、足が泥の中にはまったり、歩きづらかったりして、なれないけど、少しずつコツがわかる。

ステップ3



- つかまえた生き物を種類ごとに水をためた大きな容器にわけます。
- 種類ごとに数を数えます。
- 💡 何百匹もいる生き物を1匹ずつ見分けて移す作業はいろいろな生き物が発見できて楽しい！

ステップ4



- 水をぬいた池は、1ヶ月くらいそのままにして日光をあてることで、オオカナダモを少なくできます。
- 💡 池を干している間、生き物は別な場所で大切に飼っているのだから安心してください。